

太田川「川のふるさと整備構想」について

建設省	太田川工事事務所	正 会 員	堂 園 俊 多
建設省	太田川工事事務所		先 藤 啓 二
建設省	太田川工事事務所		○三原康宏

1. 【はじめに】

太田川は中国山地の冠山（1,339 m）を源とし、下流域では百万都市広島デルタ地域を形成して海へと流れ込む。川の自然と営みは、人々の生活と深く係わりながら地域の風土を形成してきた。川は流域住民の文化と感性の源であり、その中で暮らす住民は太田川の「社会的・文化的価値」を自ら育んできたと言える。こうした地域文化の源である「川のふるさと」に感謝しつつ、その資源を発掘・活用して流域の活性化と上下流の活発な交流・交歓の場を構築しなければならない。その具体的な活動方針を検討するため川のふるさと整備構想策定委員会を組織した。広島工業大学の金丸昭治教授を委員長とし、5回にわたり委員会を開催して「川のふるさと整備構想（案）」を策定した。

2. 【川のふるさと整備構想（案）】

1) 基本コンセプト

川のふるさと整備構想では、下記の基本コンセプトを設定した。

“太田川を通じた上下流双方向の交流活性化と地域振興、ひとづくり”

コンセプトを実施するため、下記のキャッチフレーズと4つのテーマを設定した。

キャッチフレーズ “太田川を絆とする共生に向けて”

4つのテーマ

- ・ 自然：自然との対話 ・ 文化：文化への探訪
- ・ 交流：ふれあいの場づくり ・ 情報：流域情報の受発信

具体的な活動メニューの検討にあたって、3つの視点を設定した。

- ・ 育成面：「川のふるさと」のあり方を考える人材の育成、組織づくり。
- ・ 情報面：「川のふるさ」を分かり易く発信し、情報交換を活性化させる。
- ・ 行動面：「川のふるさと」を体験する場の整備と流域の保全。

2) 流域の資源活用の方策

4つのテーマに関わる流域の資源を活用した活動を下記のようにまとめた。

自然：自然との対話

天体を楽しむ、生息生物を楽しむ（エコツアー）、地形・地質を楽しむ、アウトドアライフを楽しむ、流域の温泉を楽しむ、川そのものを楽しむ、

文化：文化への探訪

流域の歴史に親しむ、流域の文化に親しむ、伝統文化を楽しむ、

交流：ふれあいの場づくり

生活を体験する、太田川沿いのJRの利活用、リバーウォーク、モリウォーク、手づくり〇〇体験、川辺のたまり場で憩う、

情報：流域情報の受発信

各種情報誌の発行、太田川ホームページの開設、人材バンクの開設、

